

「未来の東京」戦略ビジョン

令和元(2019)年12月

東京都

人が輝く東京

ビジョン07 コミュニティ (Community)

誰もが集い、支え合う居場所・コミュニティが至る所に存在する東京

目指す2040年代の東京の姿

- ✓ 様々な人が集い、交わり、悩みを分かち合える「居場所」が、公的住宅や空き家等を活用して数多く設けられ、ここを核に新しい地域コミュニティが生まれている
- ✓ 悩みを抱える子供・若者、一人暮らし高齢者、ひきこもりの人などが、悩みを共有し、社会とのつながりを保っている
- ✓ 「地域コミュニティにおける教育」が、学校教育とも連携して充実
- ✓ 地域の若者と町会・自治会との連携により居場所が運営され、商店街の賑わいと相まって、活発な地域コミュニティが形成されている
- ✓ 良質な住宅ストックが適切に供給され、住宅に困ることなく、誰もが安心して暮らすことができている



(人のつながり、地域コミュニティ、住まいの重要性が増している)

- 「人」はこの世に生を受け、人生を閉じるまで社会と関わりながら生きていく。日常生活はもとより、新たな挑戦や困難に立ち向かうときなど、人生のあらゆる場面で他者とのつながり、支え合う中で成長し、幸せを感じながら生きている。

- 核家族化や、価値観の多様化が進み、人と人とのつながりが希薄化しつつある現代において、「地域のおじいちゃん・おばあちゃんと子供たちが触れ合う」光景など、地域コミュニティの重要性が改めて見直されている。

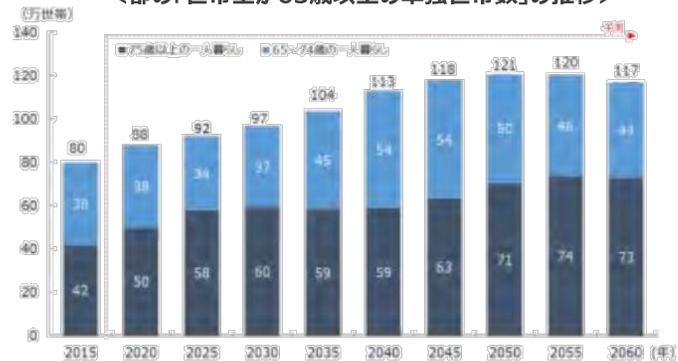
（不安や悩み、孤独感を抱える人を取り残さない）

- 学校に通えず悩みを抱える子供、定職に就けず生活に困窮する人、様々な理由で「ひきこもり」の状態にある人など、不安や孤独感を抱えた人が、悩みを分かち合える、「誰一人取り残さない」まちをつくり上げていく必要がある。

（誰もが集える「居場所」をつくり、地域コミュニティを再生する）

- 誰もが気軽に立ち寄り、他者と交流できる「居場所」が、公的住宅や空き家など既存の地域資源も活用してまちのあちこちにつくられ、誰もが悩みを共有し、支え合える環境を地域につくり出していく。
- 「居場所」では、外国にルーツを持つ子供との間で言葉や文化を教え合う姿や、高齢者が自らの経験を基に子供・若者に様々な知識・教養を教える姿など、多世代・多文化の人のつながりが生まれるとともに、不安や悩み、孤独感を抱えた一人ひとりが希望を見出すことができるようになる。
- また、企業、大学、NPOなど様々な主体と連携した「居場所」の運営を通して、地域コミュニティを支える担い手を生み出し、その人材が次代の担い手を育てる人材の好循環を実現し、持続可能な地域をつくっていく。
- もとより、安心して住まえる「住宅」は、日常生活の基盤であり、地域の居場所の確保とあわせて、良質な住まいが確保されている必要がある。時代のニーズをしっかりと捉え、公的住宅や民間住宅を含め東京全体を視野に入れた骨太の住宅戦略を展開し、人が安心して暮らせる住環境をつくり出していく。
- 誰もが集い、支え合う居場所・コミュニティが至る所に存在するまちをつくり上げ、人が輝く東京を実現していく。

＜都の「世帯主が65歳以上の単独世帯数」の推移＞



(資料) 2040年までは総務局「東京都世帯数の予測」(平成31年3月発行)を基に作成。
2045年以降は政策企画局計画部による予測値。
※単位未満の四捨五入等により、内訳の合計が総数と一致しない場合がある。